

佐賀県筑後川水系からの国内外来種ギギの記録

藤井琉穂¹・藤井智畝²・藤井俊介³

Author & Article Info

¹ 京都大学農学部資源生物科学科 (京都市)

fujii.ryuho.87a@st.kyoto-u.ac.jp (corresponding author)

² 佐賀県立鳥栖高等学校 (鳥栖市)³ Aquatic Breath- 河川生物調査 - (三養基郡みやき町)

Received 28 April 2025

Revised 29 April 2025

Accepted 29 April 2025

Published 01 May 2025

DOI 10.34583/ichthy.55.0_6

Ryuho Fujii, Chiune Fujii and Shunsuke Fujii. 2025. First record of *Tachysurus nudiceps* (Siluriformes: Bagridae) from Chikugo-gawa River system, Saga Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 55: 6–8.

Abstract

A single juvenile specimen of *Tachysurus nudiceps* (27.7 mm SL) from Shozu-gawa River, Chikugo-gawa River system, Saga Prefecture, Japan, represented the first record of the species from the prefecture. The species is known as a domestic introduced species in Kyushu and has previously been recorded from Fukuoka, Oita, Kumamoto, and Kagoshima prefectures in Kyushu.

ギギ科のギギ *Tachysurus nudiceps* (Sauvage, 1883) は、瀬戸内海集水域を中心とした本州・四国・九州の一部に自然分布する (藤田, 2019a; 細谷, 2013). 本種は日本各地で琵琶湖産アユの放流などに伴って自然分布域外に移入・定着しており, 地域在来のギギ科魚類に対する影響が懸念されている (渡辺・森, 2012; 小早川, 2015; 藤田, 2019a). 九州においては筑後川・球磨川・川内川水系といった複数の水系においてギギの移入・定着が確認されており, 特に筑後川水系と川内川水系では現在進行形で在来のアリアケギバチがギギに置き換わりつつある (Mizoiri et al., 1997; 福岡県環境部自然環境課, 2025; 熊本県希少野生動植物検討委員会, 2019; 古橋ほか, 2020). こうした移入種の生息状況や他種への影響を把握することは, 地域の生態系を有効に保全していくうえで重要である.

2024年8月13日に筆者により佐賀県内の筑後川水系寒水川の最下流部でギギの幼魚1個体が採集された. これまで同水系の佐賀県内支流では, 本種の侵入は確認されてい

なかった. そこで, 筑後川水系におけるギギの侵入状況について補足となることを期待して, 佐賀県からの本種の初めての記録を報告する.

材料と方法

魚類の採集には, 主にタモ網を使用した. 細谷 (2019) にしたがって, 採集されたすべての魚類を現地で同定・記録した. 採集されたギギは生きたまま持ち帰り, 生時の水槽写真を撮影した後, 本村 (2009) にしたがって標本処理した. 標本は10%ホルマリン水溶液で数週間固定したのち70%エタノール中に保存した. 標本の計数および計測は, Hubbs and Lagler (1947) と Watanabe and Maeda (1995) にしたがって, デジタルノギスを用いて0.1 mm単位まで計測した. 体色の記載は生鮮時のカラー写真に基づく. 標本は佐賀県立宇宙科学館 (SSSM) に登録・保管されている.

Tachysurus nudiceps (Sauvage, 1883)

ギギ

(Fig. 1; Table 1)

標本 SSSM-G-0002, 標準体長27.7 mm, 佐賀県三養基郡みやき町・筑後川水系寒水川放水路 (33°18'11.4"N, 130°27'14.4"E), 2024年8月13日, タモ網, 藤井智畝.

記載 各部位の計数・計測値をTable 1に示した. 体は細長い円筒型で, 体後半にかけて側扁し, 頭部はやや縦扁する. 頭部と体は無鱗. 吻は尖り, 先端は丸い. 上顎に2対, 下顎に2対の計4対の口ヒゲをもつ. 眼は前後方向に長い楕円形. 背鰭は三角形の帆状. 臀鰭は丸みを帯びた平行四辺形. 尾鰭は二分する. 胸鰭棘の前縁は鋸歯状. 腹鰭の起点は背鰭基底後端よりも後ろに位置する. 側線は完全.

色彩 体の地色は黄褐色で, 腹側は白色. 吻から眼にかけて黒褐色を帯び, 後頭部から鰓蓋にかけて黒褐色の帯がある. 胸鰭から背部にかけて平行四辺形の褐色斑がある. 背鰭後端から脂鰭, 臀鰭前半部にかけての体側と尾柄部に黒褐色の暗斜帯がある. 背鰭は白色半透明で, 前縁は黒色

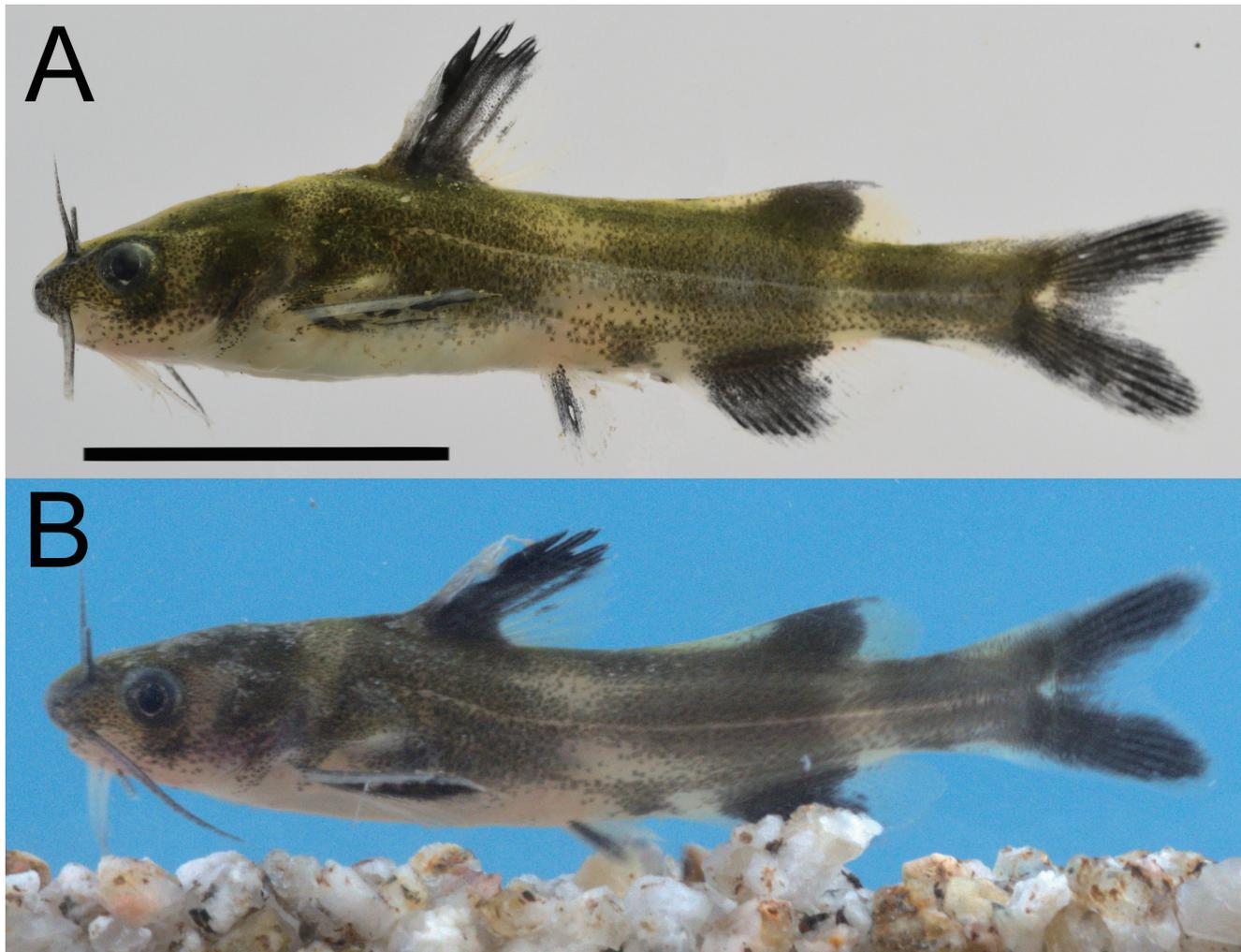


Fig. 1. Fresh (A) and live (B; reversed) specimen of *Tachysurus nudiceps* from Shozu-gawa River, Chikugo-gawa River system, Saga Prefecture, Japan. SSSM-G-0002, 27.7 mm standard length. Photos by R. Fujii (A) and S. Fujii (B). Scale bar: 10 mm.

Table 1. Counts and proportional measurements of specimen [SSSM-G-0002, 27.7 mm standard length (SL)] of *Tachysurus nudiceps* from Saga Prefecture, Japan.

Counts	
Dorsal fin rays	II + 7
Anal fin rays	20
Pectoral fin rays	I + 7
Pelvic fin rays	6
Measurements (% SL)	
Head length	28.2
Predorsal length	34.7
Length of dorsal fin base	12.6
Length of anal fin base	21.3
Preanal length	58.5
Prepelvic length	50.2
Body depth	17.7
Caudal peduncle depth	11.9
Caudal peduncle length	14.8
Head width	20.2
Maxillary barbel length	12.3
Nasal barbel length	8.7
Outer mandibular barbel length	12.6
Inner mandibular barbel length	9.0
Snout length	7.2
Eye diameter	6.5

がかり、棘は白色。脂鱗は黄褐色で、中央は黒褐色を帯び、後端は白色半透明。胸鱗は白色半透明で後縁は黒色がかかり、棘は白色。腹鱗は白色半透明で前縁は黒色がかかる。臀鱗は白色半透明で、前縁から中央部にかけて黒色がかかる。尾鱗は黒褐色で縁辺は白色がかかる。瞳孔は黒褐色、虹彩は黒色。鼻孔付近の1対のヒゲは黒色、上顎側面の1対は灰色、下顎の2対は白色半透明。

備考 本標本は、生時の体色が黄褐色であること、脂鱗と4対の口ヒゲを持つこと、臀鱗軟条数が20であること、尾鱗後縁が深く湾入することなどの特徴をもつことにより、細谷 (2013) や藤田 (2019a) にしたがって、ギギに同定された。筑後川水系には同属のアリアケギバチが在来分布するが、アリアケギバチは尾鱗後縁の切れ込みが極めて浅く、吻がより丸みを帯び、小型個体では生時の体色がコントラストのはっきりした特徴的な黒と黄色のマーブル模様を示すことなどの特徴により、ギギと識別できる (Watanabe and Maeda, 1995; 細谷, 2013; 藤田, 2019a, b)。

本個体が採集された寒水川は筑後川の河口堰である筑後大堰の下流側に流入する支流であり、採集地点は有明海の潮汐の影響を受ける感潮域であった。筑後川水系でのこれ

までのギギの確認記録は大分県および福岡県内の筑後川上・中流域の本流および支流を中心としており（大分県，2022；国土交通省，2025），本標本は筑後大堰の下流からの本種の初めての報告となる。ギギは，すでに佐賀県内の他の支流にも侵入している可能性が高く，今後の佐賀平野域における分布拡大や在来種のアリアケギバチに対する負の影響が懸念される。佐賀県内の筑後川水系におけるアリアケギバチの記録は少なく，近年では2018年の城原川での採集記録があるにすぎないが（濱野，2022），近隣の嘉瀬川水系などでは現在でもアリアケギバチの生息が確認されており（田島，2014；佐賀県，2016），ギギが侵入した場合には深刻な影響が予想される。近隣の諸水系へのギギのさらなる分布拡大を予防し，適切に防除するためにも，同水系における侵入状況の早急な把握が望まれる。

本報告における採集調査では，ギギの他にニホンウナギ（学名は省略する），コイ，ゲンゴロウブナ，ハス，オイカワ，スゴモロコ類，ボラ，クルマサヨリ，スズキ，ブルーギル，ヒイラギ，ヤマノカミ，カワアナゴ，マハゼ，ウロハゼ，ヌマチチブ，シモフリシマハゼが採集，または目視で記録された。採集地点の底質は時折泥（ガタ土）の混じる平坦な砂地で，ギギは沈没していた流木の下から採集された。

謝 辞

福岡保健環境研究所の中島 淳氏には，筑後川水系におけるギギの生息状況に関してご教示いただくとともに，本稿の執筆を勧めていただいた。佐賀大学農学部の亀井裕介氏には，筑後川水系におけるギギの生息状況について有益な情報を提供していただいた。佐賀県立宇宙科学館の伊藤辰徳氏には，標本の登録にご協力いただいた。以上の方々に謹んで御礼申し上げます。

引用文献

- 藤田朝彦. 2019a. ギギ, pp. 198–199. 細谷和海（編）山溪ハンディ図鑑 15. 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 藤田朝彦. 2019b. アリアケギバチ, p. 220. 細谷和海（編）山溪ハンディ図鑑 15. 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 福岡県環境部自然環境課. 2025. 福岡県の希少野生生物 福岡県レッドデータブック 2024. 福岡県環境部自然環境課, 福岡. 861 pp.
- 古橋龍星・中村潤平・是枝伶旺・米沢俊彦・本村浩之. 2020. 鹿児島県北西部の川内川水系における定着が確認された国内外来魚2種（ハスとギギ）の標本に基づく記録. *Nature of Kagoshima*, 46: 259–265.
- 細谷和海. 2019. 山溪ハンディ図鑑 15. 増補改訂 日本の淡水魚. 山と溪谷社, 東京. 559 pp.
- 細谷和海. 2013. ギギ科, pp. 335, 1822–1823. 中坊徹次（編）日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 濱野大作. 2022. 神埼市域の魚類, pp. 185–202. 神埼市教育委員会市史編纂室（編）神埼市史第1巻. 自然・民俗・石造物編. 神埼市, 神埼.
- Hubbs, C. L. and Lagler, K. F. 1947. Fishes of the Great Lakes region. *Cranbrook Institute of Science Bulletin*, 26: i–xi + 1–186.
- 小早川みどり. 2015. アリアケギバチ, pp. 282–283. 環境省（編）レッドデータブック 2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物 4 汽水・淡水魚類. 株式会社ぎょうせい, 東京.
- 国土交通省. 2025. 河川環境データベース. [URL](#) (25 Apr. 2025)
- 熊本県希少野生動物植物検討委員会. 2019. レッドデータブックくまもと 2019 —熊本県の保護上重要な野生動物植物—. 熊本県環境生活部自然保護課, 熊本. 632 pp.
- Mizoiri, S., N. Takeshita, S. Kimura and O. Tabeta. 1997. Geographical distributions of two bagrid catfishes in Kyushu, Japan. *Aquaculture Science*, 45: 497–503.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 大分県. 2022. アリアケギバチ. レッドデータブックおおいた 2022～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～. [URL](#) (27 Apr. 2025)
- 佐賀県. 2016. 佐賀県レッドリスト汽水・淡水魚類編 2016. [URL](#) (27 Apr. 2025)
- 田島正敏. 2014. 改訂版 佐賀県の淡水魚—人と川と自然を考える. 佐賀県立図書館, 佐賀. 153 pp.
- Watanabe, K. and H. Maeda. 1995. Redescription of two ambiguous Japanese bagrids, *Pseudobagrus aurantiacus* (Temminck and Schlegel) and *P. tokiensis* Döderlein. *Japanese Journal of Ichthyology*, 41: 409–420.
- 渡辺勝敏・森 誠一. 2012. ネコギギ：積極的保全に向けたアプローチ. *魚類学雑誌*, 59: 168–171.